

## 『世界の中の日本とわたしたち』

学校名・名前	: 神戸市立霞ヶ丘小学校	吉田 愛香
実践教科	: 社会・総合的な学習の時間	
指導時数	: 12 時間	
対象学年	: 小学 6 年生	対象人数 : 179 人

### < 教師海外研修を通して感じたこと >

自分が想像していた以上に、日本の人々が自分たちの知識や技術を中国の人たちに伝えていることに驚いた。またメディアを通して知らされていたことは、ある一面から見たものにすぎず、自分の目で見て確かめることの重要性を知ることができた。

内モンゴルでの砂漠の見学は、今、地球で起こっている環境破壊を目の当たりにする体験だった。また、それを何とかしていこうとする人々の話を聞き、一人一人が少しずつでも自分たちのできることをしていくことが大切だと感じた。

### 教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

#### BEFORE

中国に対しては、様々な事件やメディアからの情報により、悪いイメージしかもっていなかった。

近年すさまじいスピードで成長しており、国際社会において、重要な国という印象があった。

輸出入や文化の面でのつながりは深い、怖そうだなという思いをもって参加したのが事実である。

#### AFTER

実際にそこで暮らしている人々の生きた話を聞いたり、現地のスタッフと触れ合ったりする中で、彼らの温かい人間性や、一生懸命さに惹かれている自分がいた。

日本に対して興味をもってきている高校生とのふれあいを通して、日本人も中国人もみんな同じだ思うようになった。

## 授業の詳細

### 1. カリキュラム

#### (1) 実践の目的/背景

世界には 200 近い国々がある。子どもたちにとっては、スポーツや食などを通して身近に感じる国々も多いが、偏ったイメージや偏見があるように感じられる。特に中国に対しては、私自身と同様に、メディアからの情報により、マイナスのイメージが強い。そして他の国に対しても、この国はこうだ、この国は嫌いというように知っている国々をイメージで決めつけている児童が多くいる。

今の社会は世界の国々がつながり、協力し合って成り立っている。世界の人々のくらしの様子や願い、日本とのつながりを知る中で、考え方や文化に違いがあることを気づかせたい。また、児童自身が感じていた国のイメージ以外の側面や、自分たちと似ている面があることにも気づいてほしい。そして結びつきを深める世界の中で、世界の国々とお互いに理解を深め合い、平和な国際社会の実現を目指して、日本が国際社会の中で重要な役割を果たしていることを理解し、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さを自覚できるようになることを目的とする。

#### (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1 時限目</b> 世界がもしも 36 人の村だったら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの人数を世界の人口としたとき、どんな人々がいるのか</li> <li>・その人々がどんな生活をしているのか</li> </ul>	世界地図 世界がもし 100 人の村だったら (本) 国名が入ったカード
<b>2 時限目</b> 日本とつながりの深い国にはどんな国があるだろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている国をあげ、どんなことを知っているか伝える</li> <li>・知っている国と日本にどのようなつながりがあるか考える</li> <li>* 中国については、必ず触れておく</li> </ul>	世界地図 ワークシート
<b>3 時限目</b> 中国ってどんな国？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国のイメージを出し合う</li> <li>・中国の概略 * 位置、面積、人口、言葉、国旗</li> <li>・街中の様子 * 似ているところ、違うところ</li> <li>* 日本とのつながり</li> <li>・学校の様子・食べ物</li> </ul>	パワーポイント ワークシート 中国土産 (漫画・教科書)
<b>4 時限目</b> 中国ってどんな国？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題</li> <li>* 内モンゴル自治区の砂漠化</li> <li>・日本とのつながり</li> <li>* 国際協力で活躍する日本人</li> </ul>	パワーポイント ワークシート 教科書・砂漠の砂 モンゴル族の民族帽子

<b>5～6時限目</b> 中国について調べよう	・テーマに沿って調べる ＊学校、暮らし、文化、つながりなど	本、新聞 インターネット
<b>7時限目</b> 中国について発信しよう	・班の友だちに調べたことを発表する	
<b>8～10時限目</b> 日本とつながりのある国について調べよう	・韓国・アメリカ・オーストラリアを中心に自分の調べたい国について、日本とのつながりやその国の学校生活や文化について調べる	本、新聞 インターネット
<b>11～12時限目</b> 調べたことを発信しよう	・自分が調べたことをクラスみんなに広める	

## 2. 授業の詳細

### 1時限目 世界がもしも36人の村だったら

#### 目標

- ・世界の中にはどんな人々がいて、どんな生活をしているのか感じとる。

#### 内容

クラスの人数を世界の人口としたとき、どの地域にどのくらいの人々が生活し、どんな言語が存在しているのか体験する。食べ物を貧富の差によって分けることで、現在の世界の状況を知る。

- ・カードに印をつけておき、印ごとに別れる。

- ・お菓子を貧富の差で格差をつけて渡すことで、実感する。その後すぐ感じたことを発表する。「もしも世界が100人の村だったら」の本を読み、世界には様々な人々が生活していることを知る。

<ココがポイント>  
 ・ランダムに配ったカード（国名とその国の言葉が書いてある）をもとに、同じ地域ごとに分かれる。誰が仲間か確認するときは、自分のカードに書いてある言語しか話せない。（中国なら「ニーハオ」）  
 ・このとき人口密度も分かるよう、ロープで区切った中に座る。（6つの地域）

#### 児童の感想

- ・アジアの人口がとても多かった。
- ・私はお金持ちでたくさんのお菓子がもらえたが、中には1つのお菓子を数人で分けあっていて、貧富の差に驚いた。私は恵まれているんだなあと思った。
- ・数人でたくさんのお菓子をもらっていて、分けてほしかった。

#### 所感

実際にクラスを世界の人口比率で分けることによって目で、体で世界にどんな人々が暮らしているのか感じる事ができた様子だった。アジアの人口の多さについてはすでに知っている児童がたくさんいたが、ヨーロッパやアメリカの人口密度の高さについては全く知らなかったようで、驚いている児童が多数いた。導入として、この教材を取り入れたことは世界に目を向けるきっかけとなりよかったように思う。ただ、貧富の差ばかりを強調することになってしまったので、ここでは、貧富の差についてはふれなくてもよかったように思う。

## 2時限目 日本とつながりの深い国にはどんな国があるだろう

### 目標

- ・日本は世界中の国々につながりがあることを知る。

### 内容

知っている国を書き出し、どんなことを知っているか伝えあう。

知っている国と日本にどのようなつながりがあるか考える。

#### <ココがポイント>

観光地・スポーツ・歴史・食べ物とジャンルを問わず、知っていることをたくさんワークシートに書き出した。

#### 児童の感想

- ・知らないところでも日本とのつながりがたくさんあることが分かった。
- ・スポーツでつながっている国がたくさんあった。
- ・つながりを考えてみると、世界の国がすごく近く感じられた。
- ・日本に文化が入ってきている国がたくさんあって驚いた。

### 所感

考えていた以上にたくさんを知っていて驚いた。観光地や食べ物、スポーツだけでなく、経済面でのつながりや歴史に関わることまでたくさんの視点で考えられたことは、今後の調べ学習の助けになるように感じた。

## 3時限目 中国ってどんな国？

### 目標

- ・中国について知り、興味をもつ。

### 内容

中国に対してもっているイメージを出し合う。

中国の概略（位置、面積、人口、言葉、国旗など）を確認する。

街中の様子から似ているところ、違うところを見つける。

- ・沖縄のシーサーのような守り神
- ・故宮の色鮮やかさは二条城に似ている。
- ・こま犬のようなもの ・掛軸

日本とのつながりを知る。

- ・日本の会社がある ・食べ物が似ている
- ・日本のアニメやドラマ

小学校の様子や高校の様子を知る。

どんな食べ物があるか知る。



言葉クイズ



オールドス市杭錦旗中学



漢族の食事



言葉クイズ

### 児童の反応

- ・中国に対して蔑むような見方をしたり、怖い、自分勝手などの考えをもったりしている児童がほとんどだった。しかし、中国と日本は古くから交流があり、漢字など多くの文化が伝わってきたなど肯定的な意見もあった。
- ・パワーポイントを使った中国紹介では、中国の漢字から意味を推測する場面で、読めることに喜びを感じている児童が多数いた。
- ・中国の小学生の勤勉さに驚いていた。

### 所感

中国に対するイメージを子どもたちに聞いたとき、想像していた以上のマイナスイメージが出てきて戸惑った。子どもたちのイメージを始めに出しておいてから教材に入ると、最初と最後での変化に気づきやすいので必要だと思うが、今回に限っては聞かない方が良かったかもしれない。しかし、1時間終わった後の感想では「中国を身近に感じた。」「料理がおいしそうだった。」「実際に行ってみたくなった。」など肯定的な感想をもつようになっており、多方面から伝えていくことの大切さ、自分自身の経験が子どもたちの印象を大きく変えることができるのだということを痛感した。



日本と似ているものたち



日本の会社がいたるところに

### 4時限目 中国ってどんな国?

#### 目標

- ・環境問題に興味をもち、中国では砂漠化が問題となっていることを知る。
- ・中国で活躍している日本人がいることを知り、日本人としての誇りをもつ。

#### 内容

地球環境問題としてどんなことがあるかを考える。

内モンゴル自治区では砂漠化が進んでいることを知る。



庫布齊砂漠



水をまく機械

・日本人が砂漠化を防ぐために内モンゴル自治区で活躍していること知り、それ以外にも日本語教師や視覚障害者音声情報提供技術指導事業や中国リハビリテーション研究センターでも、技術協力等で従事していることを知る。

<ココがポイント>  
本物の砂漠の砂を見せる。袋越しに触ることで、砂がさらさらで、植物が育ちにくそうだと感じる事ができたようである。  
また、砂が飛んで砂漠が広がることの理解も深まった。



植林植草事業



視覚障害者施設

### 児童の感想

- ・日本の技術が中国で役立っていて、日本人はすごいと思いき嬉しくなった。
- ・日本以外の場所で環境を守る活動をしている日本人がいることを初めて知った。自分にできることからコツコツしていきたいと思う。
- ・点字を中国に教えたなんてすごい。日本人であることに誇りをもてた。自分も世界で活躍できるようになりたい。



中国リハビリテーション  
研究センター

### 所感

砂漠の砂を実際に見て、この状態から植林することの難しさを理解する助けになったように思う。遠いことのように感じていた砂漠化だが、黄砂によって日本にも影響が出ていることや、日本人が活動していることもあり、より身近に感じている様子だった。日本点字図書館の職員が中国の視覚障害者のための副音声映画の作り方を指導したり、リハビリテーションセンターの人材育成のために日本人が派遣されていたりと、技術協力にも力を入れている理由についても考えることができたのは意味のあることだった。

## 5～6時限目 中国について調べよう

### 目標

- ・決めたテーマについて調べ、中国についてまとめる。

### 内容

興味をもったテーマにそって調べる。

- ・学校生活・食事・民族・文字と言葉・砂漠化・歴史など

### 児童の様子

インターネットや本を使って積極的に調べ学習を行っていた。また、家で保護者に聞いてくる児童もいた。

### 所感

今回は、私が紹介した中国の情報をもとに、さらに気になったことについて調べてまとめるという方法を取った。だいたいのことは、今までに紹介されたことをまとめる予定だったので時間は十分足りる予定であった。しかし、実際に活動を始めてみると、調べたい事柄がいくつも出てきて、2時間で調べてまとめることは難しかった。結果的に3時間使い調べ学習を行った。調べたことは新聞形式にまとめるようにした。

## 7時限目 中国について発信しよう

### 目標

- ・調べたことを分かりやすく発表する。 ・友だちが調べたことを聞き、メモを取る。

### 内容

班の友だちに調べたことを発表する。(4人1組の班で、順番に調べたことを発表し合う。)

内モンゴル自治区のオルドス市杭錦旗中学で、私が高校生と交流している様子のビデオを見る。

- ・夏休みに児童が作成した「日本の遊びレクチャービデオ」を見て、実際に高校生が日本の遊びに挑戦している様子を撮影したのを見る。

### 児童の感想

- ・中国は民族が 50 以上もあって違う風習や言葉を使っていることに驚いた。同じ国なのに、言葉が通じないなんて大変そう。
- ・中華料理が好きだから、今回調べた料理を食べに中国に行ってみたくなった。
- ・僕たちが紹介した遊びのビデオを見て、お手玉や竹トンボをしてくれて嬉しかった。友だちになれたような気がした。

### 所感

調べた内容の全てを発表するのではなく、要点を絞り、特に伝えたいことだけを発表するようにした。食べ物、文化、小学生の学校生活が特に多いテーマだった。最後に、児童が作成したビデオをオールドス市杭錦旗中学の高校生に見せたときの様子を撮影したビデオを児童に見せた。日本語での解説を楽しそうに見る高校生の様子を見て、言葉が通じなくてもジェスチャーで思いが伝わる喜びを感じている様子だった。また、楽しそうな高校生の様子を見ることで、今まで感じていた壁もさらに取り払われたように思う。

### 8～10 時限目 日本とつながりのある国について調べよう

#### 目標

- ・興味のある国について日本とのつながりやくらしの様子について調べ、まとめる。

#### 内容

韓国・アメリカ・オーストラリアを中心に自分の調べたい国について、日本とのつながりやその国の学校生活や文化について調べる。(その他にも、ブラジル・オランダ・イタリア・イギリス・フランス・ドイツなどがあつた。)

### 児童の様子

前時同様に、それぞれが自分の調べたい国について、インターネットや本、新聞等で調べ学習を行った。また、家で保護者聞く、本を用意するなど積極的に取り組んでいる児童もいた。

### 所感

中国に関する授業をすでに行っていたため、それぞれが集中して調べ学習に取り組むことができた。同じ小学校でも国によって学校制度が違っており、くらしのようすが異なるため、自分の興味のある国のことを楽しんで調べることができたようであった。調べる国を教科書に出ている 3 カ国に限って学習を行うか迷ったが、自分の調べたい国を自由に選べるようにしてよかった。

### 11～12 時限目 調べたことを発信しよう

#### 目標

- ・調べたことを分かりやすく発表する。
- ・友だちが調べたことを聞き、メモを取る。

#### 内容

調べたことの発表会を行う

- ・学級全体の前で発表する。

### 児童の様子

- ・いろいろな国のくらしの様子を知り、みんな少しずつ違うけれど、それぞれに良いところがあり、お互いに良いところを認め合っていけば平和な世界が築けるのではないかと思った。
- ・僕たちが世界の子どもたちのことを知って、世界の子どもたちもお互いのことをわかろうとすれば戦争はなくなるとおもう。
- ・世界のいろいろな国のことが分かった。調べた国にいつか行ってみたい。

### 所感

前は班ごとだったが、今回はそれぞれ調べた国が違うので、国ごとに学級全体の前で発表した。同じ国を調べた児童がいた場合は、発表内容が重ならないように発表させた。一人一人が自分の調べた国に愛着をもち、「行ってみたい」と思ったようである。またその国ごとの文化の違いや、また国の中でも文化の違いがあることに気づけた。国の文化に違和感をあつた児童もいたようだが、多数の児童はその違いを受け入れ、また興味をもっていたようである。

### 3. 成果と課題

授業を通して中国という国を多方面から見つめることができた。私自身が実際に見て、聞いて、ふれてきた中国を伝えるということで、子どもたち一人一人が興味をもって授業に参加することができた。最初は馬鹿にしたような発言しかしていなかった児童だが、話を聞き、自分たちで調べ、そして私が持って帰ってきた教科書や本を見たり、中国独楽で遊んだりしていくうちに、「行ってみたい」「おもしろい」「日本人とあんまり変わらない。同じ人間だ。」と感じるようになったようである。最初は、一方的に伝えるばかりで興味や集中力はもつのだろうかと心配な点もあったが、教師の実体験というのはそれだけで子どもたちにとっては、聞きたい話なのだということを改めて実感した。そうした意味でも今回の研修に参加できたことは価値のあるものであった。

他クラスに対しては中国の紹介の部分のみ授業を行った。ただ、5クラスもあるので、本校でこのような形で授業を組み立てていくことは少し無理があるように感じた。今後は合同で行うかやり方を変えて授業を組み立てていく必要がある。また、世界中の国々について学ぶ機会をより有意義なものにするため、実際に諸外国の人々にゲストティーチャーとして来てもらい交流する機会がもてれば、さらに世界の国々を身近に感じるのではないかと思う。しかし、実際には総合的な学習の時間は限られており、時数の確保という点では難しいことが現状である。

### 参考資料

#### ・参考文献

『世界がもし100人の村だったら』マガジンハウス 池田香代子/再訳・文

文部科学省検定済教科書 小学校社会科用 『小学社会6年下』大阪書籍

